財団法人 東洋文庫年報

昭和61年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和61年度

目次

I 昭和61年度の東洋文庫 …… 3

II 図書事業 …… 5

1. 図書資料の収集 …… 5

2. 図書資料の保存整理 …… 6

3. 図書資料の閲覧 …… 7

4. 研究資料複写サービス …… 9

III 研究事業 …… 10

1. 調査研究 …… 10

i 文部省科学研究費による調査研究 …… 10

ii 一般調査研究 …… 13

iii 特別調査研究 …… 15

iv 研究委員会 …… 16

2. 学術図書出版 …… 17

3. 講演会 …… 18

4. 研究者養成 …… 19

5. 学術情報提供 …… 20

i 研究者の交流及び便宜供与サービス …… 20

ii 研究会等への会場提供サービス …… 23

iii 研究資料の複刻・増刷・刊行サービス …… 23

6. 職員の研究業績 …… 25

Ⅳ 業 務 報 告 …… 33
1. 総 務 報 告 …… 33
2. 人 事 報 告 …… 34
Ⅴ 役 職 員 名 簿 …… 36
1. 役 員 …… 36
2. 東洋学連絡委員会委員 …… 38
3. 名 誉 研 究 員 …… 38
4. 職 員 …… 39
5. 臨 時 職 員 …… 42
Ⅵ 財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 …… 43
1. 調査研究事業 …… 43
2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動 …… 45
3. 出版物の作成 …… 48
4. 業 務 報 告 …… 52
5. 役 職 員 名 簿 …… 56

I　昭和61年度の東洋文庫

昭和61年度は東洋文庫として最も充実した年度の一つであった。

それは第一に「ペルシャ語文化圏の成立と展開に対する総合的研究」（二ケ年継続事業初年度）が開始せられたこと，第二にロンドンの大英図書館とパリの国立図書館とに所蔵せられているスタイン及びペリオ蒐集のチベット・サンスクリット・コータン・クチャ諸語文献の現物についての調査が行われ，正確な目録の作成が開始せられたことである。

殊に後者は敦煌からそれらの文書が将来せられてから既に80年が経過し，その間若干の学者がその調査研究に従事したが，なお原文書そのものの整理が十分であるとは言えない状態であった。それが東洋文庫研究員を中軸とする人々によって完璧な整理が加えられつつあるのであって，学界のために誠に慶賀に堪えないところである。

その一面，東洋文庫は昭和58年・59年・60年に続いてその所蔵の広橋家旧蔵文書の69点を国立歴史民族博物館に譲渡した。これによって，東洋文庫はその最も誇としていた蔵書の一部を失うことになった。経営が困難であるのなら，まづ人員の削減を行うべきである。図書館の生命ともいうべき図書を他に譲渡するとは何事であるかと，責任者を名指で非難する向もあったが，それはよくこれだけの人員でと思われるほど切詰めに切詰められた職員の実数を知らない人の空論であって，問題とするに足らない。折角東洋文庫に一括して集められているものを，より高い売価を期待するがために商人の手を通して一般市場に売出し，散佚させてしまうような処置がとられたのであれば別であるが，国立歴史民族博物館という，見方によっては文書のよりよき落着き場所に連続移譲されつつあるのであって，他から非難される筋は全くないのである。この譲渡に当って終始御指導を賜った坂本太郎理事が，昭和62年2月16日，逝去せられたことは，返す返すも残念で，哀悼に堪えない。

図書部門では従来の方針に従って内外の定期刊行物の充実につとめ，資料購入の予算をより多く獲得する方便として，中央アジア・東アジア・西アジア・チベット・近代中国の地域に特に重点を置く形にしていることも，これまでと変りがない。一般参考書を始め，これら5地域以外の北アジア・南アジア・東南アジアに関する図書も引続き蒐集せられつつあるのは勿論であるが，まづ何年か右の5地域に関する図書の蒐集に力点を置き，予算の増加が恒常化した時期を見計って，重点地域を次々に変えて行こうというのである。

東洋文庫の昭和61年度の図書購入費は総計僅か1759万円。これは欧文書19部門（定期刊行物も1部門として数える），特殊語（ペルシア・アラビア・トルコ・チベット・蒙古・タイ）を1語1部門に数えて6部門，それに和漢書を2部門とすると，合計27部門ということになるから，1部門の図書購入費は年平均65万円強に過ぎない。これを月割にすると5万4千円強となる。1冊何万円かする学術新刊書が次々に世に送られつつあることを考えると，

これでは各部門せいぜい月数冊を購入できるに止る。まして学術的価置の高い古書ともなれば，65万円はその１冊を買うにも足らないであろう。

要するに，東洋文庫と称する機関の年間の図書蒐集費が1759万円というのは，余りに貧弱である。幸に内外からの交換及び寄贈図書が少くないので，蒐書の実質は予算よりは何百万円か多いことになるであろうが，いづれにしても蒐書予算を少くとも3,000万から5,000万の線にもって行きたいというのが，局に当る者の偽らざる希望である。

東洋文庫は大正13年11月19日に創設せられた。今年昭和61年はそれから62年。還暦を越えて２年である。東洋文庫創立の頃には，日本にはまだ専門の東洋学の研究所は勿論，図書館もなかった。大学の関係講座もまた暁天の星の如く寥寥たるものであった。この60余年の間に，蔵書の一般への公開を通じて，出版物の配布を通じて，公開講座の開催を通じて，東洋文庫は些かではあったが日本の，否世界の東洋学の進歩に貢献して来た。しかし東洋文庫の活動はこれからなのである。

我々は創立当初の方針の如く世界の各国で刊行される論著を網羅的に蒐集し，東洋文庫に来れば何人も直ちに世界の東洋学の最新の成果が容易に参照できるようにしなければならない。

我々は亦発達した複写技術を活用して，嘗ては遠隔地にあるが故に利用の容易でなかった原文書を複写し，それを東洋文庫に蒐集して，何人にも利用し得るようにしなければならない。

我々は亦出来る限り多くの優れた人を研究員に迎え，その研究に便宜を与えたい。

一方，東洋文庫は毎年多くの外国人学者と接触し，情報の交換を行い，その何人かを臨時の研究員として，或いは数か月，或いは１，２年に互って文庫に研究室をもち，図書を自由に利用して縦横に活動して貰っている。この年報にも昭和61年度におけるその実状が報告されている。国際的研究機関としての東洋文庫の機能は，出版物の配布交換のほかに，こうした人的交流の面でも僅かづつながら発揮せられつつある。それは残念ながら十分と言える程度からは程遠いものであるが，絶えることなく続いている。こうした国際協力の輪をもっともっと拡げ，共通の題目について，一国乃至数か国の学者と積極的に共同研究を進めたい。

東洋文庫は日本の東洋文庫であると同時に，世界の東洋文庫であらねばならない。

東洋文庫にとっては毎年がその新しい出発の年なのである。

Ⅱ 図 書 事 業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料・中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料・チベット特別研究資料・近代中国特別研究資料があり，昨年度より 11,320冊増加した。財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるために万やむを得ざる措置として，広橋家旧蔵文書69点を昨年度に続いて，国立歴史民俗博物館へ譲渡したため，蔵書数は684,850冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	その他	マイクロ・フィルム	計
	冊	冊	枚	リール	
一般文献資料	194	79	0	0	273
中央アジア特別研究資料	26	308	0	0	334
東アジア特別研究資料	2,178	45	0	0	2,223
西アジア特別研究資料	0	797	0	0	797
チベット特別研究資料	0	0	0	0	0
近代中国特別研究資料	1,336	149	0	24	1,509
計	3,734	1,378	0	24	5,136

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
単行本 (冊)	1,033	656	1,689	1,754	605	2,359
定期刊行物 (冊)	3,277	1,218	4,495	825	801	1,626
計 (冊)	4,310	1,874	6,184	2,579	1,406	3,985

2. 図書資料の保存整理

資料の利用を考慮した資料の保存・整理の問題を積極的に検討し，計画的に作業を実施している。

・補修再製本・製本

①

区分	単行本		
	和装		洋装
数量	葉 9,054	冊 410	冊 540

②

区分	定期刊行物	製帙	複写資料製本		その他
数量	冊 1,295	帙 269	和装 711 冊	洋装 115 冊	526 冊

・撮影・焼付

区分	撮影駒数	焼付引伸数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数量	コマ 35,141	枚 63,509	リール 255	枚 1,199	件 19

3. 図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）
	日	人	人	人	冊	冊	冊
4	24	242	10 弱	△44	3, 019	126 弱	△1, 783
5	24	303	13 弱	△52	4, 759	199 弱	△6
6	24	362	15 強	47	4, 332	181 弱	554
7	26	372	14 強	63	4, 591	177 弱	△2, 396
8	25	445	18 弱	△52	7, 883	316 弱	△996
9	23	351	15 強	△33	5, 273	230 弱	△960
10	25	509	20 強	50	7, 754	310 強	1, 347
11	21	428	20 強	8	5, 780	275 強	27
12	23	387	17 弱	△22	4, 288	187 弱	△829
1	22	234	11 弱	18	2, 799	127 強	△284
2	22	248	11 強	△34	4, 109	187 弱	△117
3	24	274	12 弱	△42	5, 340	223 弱	△115
計	283	4, 155	15 弱		59, 927	212 弱	

・閲覧図書数内訳

月	和書		漢書		洋書		合計	
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数
4	207	449	443	2, 213	182	357	832	3, 019
5	257	402	583	3, 967	163	390	1, 003	4, 759
6	306	519	543	3, 180	303	633	1, 152	4, 332
7	325	641	689	3, 378	262	572	1, 276	4, 591
8	458	867	1, 039	6, 485	269	531	1, 766	7, 883
9	364	746	634	4, 209	226	318	1, 224	5, 273
10	476	708	993	6, 560	244	486	1, 713	7, 754
11	459	679	764	5, 702	249	339	1, 472	5, 780
12	350	607	663	3, 229	258	452	1, 271	4, 288
1	224	420	352	2, 160	153	219	729	2, 799
2	220	442	460	3, 478	96	189	776	4, 109
3	225	642	542	4, 214	231	484	998	5, 340
計	3, 871	7, 122	7, 705	48, 775	2, 636	4, 970	14, 212	59, 927

4. 研究資料複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影駒数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
件 838	コマ 131, 192	枚 137, 104	コマ 164, 775

・電子複写

申込件数	焼付枚数
件 984	枚 59, 586

Ⅲ 研 究 事 業

1. 調 査 研 究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

総合研究 (A)

【課 題】 ペルシャ語文化圏の成立と展開に関する総合的研究

【期 間】 昭和61年度（２ケ年継続事業初年度）

【目 的】 イスラム時代以後の国際語として使用されたペルシア語を媒体に，イランを中心とする世界の東西にペルシア文化の華が開花し，「ペルシア語文化圏」が成立した。本研究の目的は「ペルシア語文化圏」の諸地域のうち，イラン本土と，周辺の小アジア，中央アジア，インド・アフガニスタンの歴史，文化，社会等を比較検討することにより，「ペルシア語文化圏」の統一性と多様性を明らかにすると共に，イスラム文化におけるペルシア文化の特質をも明確にしようとするものである。具体的には「成立班」，「展開班」の各研究分担者が，それぞれの分野における代表的ペルシア語文献から術語，重要事項を抜き出してカード化し，さらにこれらを整理して翻訳し，これらの比較検討を通して「ペルシア語文化圏」諸地域の共通点，相違点を明らかにしようとするものである。

【事 業】 1979年，イランにおけるイスラム革命の勃発と共に我が国では東洋文庫をはじめとする研究所，大学，図書館等に大量のペルシア語文献が蒐集され，これらのペルシア語文献は直ちに整理されて目録が刊行された。さらに，これらの目録を基礎に，世界最初のペルシア語文献ユニオンカタログ（所在総目録）が作成されるに至り，ペルシア語原資料を用いての研究気運が急速に高まった。イランを中心とするペルシア語文化圏各地の共通点，相違点を明確にし，イスラム文化におけるペルシア文化の特質を解明しようとする本研究もこのような一連の流れの中で企画され，実現したものである。
本年度の具体的な研究実績の概要は下記の通りである。

(1) 研究代表者及び各研究分担者は各自の専門分野の代表的ペルシア語文献の中から，可能な限り写本を用いて基本的重要事項と術語を抜き出し，整理して翻訳しカード化した。（志茂『貴顕系譜』，本田『集史』・『王族譜』，岩見『学習の基礎』，関『旋律の意図』）

(2) 上記以外の研究分担者，小グループの共同作業を通じて，ペルシア語刊本に比して写本が，いかに重要であるか改めて再認識させられたが，その比較検討において，我が国におけるペルシア語写本による諸研究を可能ならしめる基礎を確立することができた。

以上，ペルシア語文献の大量蒐集とユニオンカタログの作成という基礎作業の成果が，研究面で大きく結実しつつあることを確信するが，ペルシア語写本目録やペルシア語写本のマイクロフィルム資料の一層の充実した蒐集，及びそのプリント化等の重要案件は今後の課題として，早急に実現していかなければならない。

【代表者】 志茂碩敏

【分担者】 統轄：志茂碩敏

ペルシア語

文化圏の成立班：本田實信，羽田亨一（以上，イラン史学），岡崎正孝，八尾師　誠（以上，イラン社会），黒柳恒男，中村公則（以上，ペルシア文学），縄田鉄男（ペルシア語学），関　喜房（イラン古典音楽）。

ペルシア語

文化圏の展開班：小山皓一郎，井谷鋼造（以上，小アジアセルジューク朝史），岩見　隆，松本耿郎（以上，中央アジアスーフィズム），加藤和秀，堀川　徹（インド・アフガニスタン社会）。

海外学術研究

【課　題】 スタイン蒐集敦煌文献現地綜合調査

【期　間】 昭和61年度（単年度）

【目　的】 今世紀初め敦煌で発掘された文書・写本類の中には多数のチベット語文書が含まれていた。その敦煌チベット語文献の史料的価値はその圧倒的古さにある。すなわち，他のチベット語文献の成立年次は（翻訳仏典を除いて）12世紀以降であり，現在我々に伝わっている刊本は翻訳仏典も含くめてその多くが17・18世紀以

降に開板されたものであるのに対し，敦煌チベット語文献は８・９世紀に成立，書写されたまま後代の人の手が全く加えられずに保存されていたものである。それによって我々は直接当時のチベットの文化の諸相を解明する資料が与えられたことになる。その後敦煌文献はイギリスのスタイン卿（Sir Aurel Stein），フランスのペリオ（P. Pelliot）等の探険隊によって持ち帰えられ，前者はイギリス外務省インド局図書館（India Office Library）と大英博物館（British Museum）に，後者はフランス国立図書館（Bibliothèque Nationale）に所蔵されている。そのうちペリオ蒐集チベット語文献に関してはマルセル・ラルー（M. Lalou）女史による3冊の目録が編纂されているが，スタイン蒐集チベット語文献に関してはルイ・ドウ・ラ・ヴァレ・プサン（L. de la Vallée Poussin）のメモをもとにした不完全な目録しか存在しなかった。そこで東洋文庫はそれらをマイクロフィルムのみによって調査研究をすすめ，詳細な解題目録を刊行（既刊10冊）して来たが，その最終段階に至ったので，これまでの調査によって果たせなかった一切の不備と遺漏約600点とを一挙に補足・解決するため，現地における原文献資料の調査研究に従事し，併せてプサン目録において，申請者によって手がけられた漢文併記文献についても従来の調査を補足する。さらに，ペリオ蒐集文献との照合に完全を期すため，ラルー目録で不備な点につき，フランス国立図書館において補足調査を行う。

なお，梵語文献についても現地調査を行い，スタインのサンスクリットコレクション全体，コータン語並びにクチャ語文献についてもマイクロ・フィルムによって収集することを，新たに調査計画に加える。

【事　業】　本調査は，現地において下記の作業を行った。

(1) 判読不明のマイクロ・フィルムについて原資料を調査し，所在を確かめ，新たな技術で撮影し収集した。

(2) マイクロ・フィルムに原資料の関連番号を欠くものについて，両者の間で異同を照合して関連番号を発見し整理した。

(3) マイクロ・フィルム作製時に外部に搬出され，撮影洩れとなった資料の所在確認と当刻文献について新たにマクロ・フィルムを作製し収集した。

また，昭和62年度以降，収集する予定の資料を整理・研究し，下記の如く，その成果を刊行する。

(1) 文献の異同対照表を作成する。

(2) 判読可能になった文献の解題を作成する。

(3) 新たに撮影された文献の解題等目録を作成する。

(4) 関連文献の指示と当該文献利用論文等の言及，当該文献に関する付記類を整

理し，目録を作成する。

【代表者】　榎　一雄

【分担者】　チベット文（歴史）　：山口瑞鳳
漢　文（蕃漢文書）　：土肥義和
チベット文（禅）　：木村隆徳
〃　（密教・経）：田中公明
〃　（論書）　：福田洋一
サンスクリット文　：松田和信

ii　一般調査研究

本年度は，特に，古代史研究委員会，日本研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】　故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に日本の部を含む東亜の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行う）

古代史研究委員会

【資料の整理】　(1)東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘拓本の整理研究。
(2)『東洋文庫所蔵梅原考古資料目録―日本之部・中国之部・朝鮮之部―(Ⅱ)』の作成。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】　(1)国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによる収集・整理。
(2)内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献の公開，および情報の提供。
(3)敦煌・吐魯番文書論著の収集・整理。
(4)『敦煌・吐魯番出土文書社会経済史関係文書集』の編集・刊行。
(5)内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

4月12日（土）　土肥義和「"Tunhuang and Turfan Documents concerning Social and Economic History Ⅱ — Census Registers (A)(B) — "（唐代籍帳）の解説をおえて」

3月14日（土）　池田　温，金岡照光

「1986年度台北・敦煌学国際研討会等の参加報告について」

山本達郎「レニングラード敦煌文書の二・三について（二）」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究】　『宋史選挙志』の訳註書の作成及び同研究会の開催。（以上，前年度の継続」

(2) 宋代研究文献目録及び速報の作成。

(3) 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成。

明代史研究委員会

【資料の整理・研究】　『賢博編』（明史資料叢刊第1輯所収）を主として，明代社会に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【整理・研究】　(1)　「旧満洲檔」の整理。

(2)　「鑲紅旗檔」乾隆朝（後半部分）整理・研究。

(3)　『政考便覧』の講読研究会の開催。（隔週，研究会の開催）

近代中国研究委員会

【整理・研究】　(1)　中国共産党資料の書誌的研究。

(2)　近・現代中国における日本関係出版物の研究。

日本研究委員会

【研究・整理】　(1)　日本関係洋書解題目録の作成。

(2)　『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書書誌解題』の作成。

朝鮮研究委員会

【研究・調査】　(1)　李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。（研究会の開催）

(2)　漢字の朝鮮音韻の研究・調査

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】　(1)　『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。

(2)　イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上，前年度の継続）

4月12日　シンポジウム「商人」　問題提起：坂本　勉，松本栄三，小松久男　コメンテイター：後藤　晃　　司会：加藤　博

6月7日　福田安志　「オーマンの印象；自然と部族社会」

7月5日　新免　康　「19世紀動乱期のトルファン」

11月8日　川口琢司　「チャガタイ＝ハン国末期の有力集団とティムール」

12月13日　大稔哲也　「モスル・アターベク王朝の行政官僚」

3月14日　医王秀行　「初期アッパース朝のカーディー職」

(4)　中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(5)　イスラム社会の構造の研究。

(6)　トルコ日本両国の近代化の比較研究

チベット研究委員会

【資料の収集・整理・研究】　(1)　東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。

(2)　チベット学に関する研究会の開催。　（以上，前年度の継続）

南方史研究委員会

【整理・研究】　(1)『東洋文庫所蔵インド関係洋書分類目録(II)』の作成。

(2)　東洋文庫所蔵南アジア史関係資料（辻文庫図書）の整理とその分類目録の作成。（以上，前年度の継続）

iii　特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】　チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】　チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

(1)　チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者（前チベット自治区師範大学（ラサ）チベット語教授）Sonam Chonphel氏の協力の下に下記の作業を進めた。

①東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂の資料として，各文献の奥書きを収集し解読・分析を進めた。

②現代語チベット語について口語資料を収集し，記述的研究を進めた。

③トカン『一切宗義』「ゲールク派」の章の邦訳・訳注を準備した。

④トカン『一切宗義』「ニンマ派」「チョナン派」「カーダム派」「モンゴル・コータ

ン・シャンバラの仏教」各章のテキストの整備と機械処理を行った。

⑤サキャ・パンデイタ・『論理学総論』に関する定期的研究会を開催した。

(2) チベット文献の収集・整理

(3) 研究成果の刊行

①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録〜第11分冊〜』 B5判 1冊 (刊行済)

②『西蔵仏教宗義研究 第五巻〜トゥカン『一切宗義』「カギュ派」の章〜』 B5判 1冊 (刊行済)

③『「量評釈」に対するチベット人註釈家による科段の比較対称表』 B4判 1冊 (刊行済)

④『チベット特別調査研究年次報告』 A5判 1冊 (刊行済)

近代中国特別調査研究(近代中国研究委員会)

【目 的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国関係資料の書誌的研究

【事業内容】

(1) 共同利用研究

(2) 情報交換および参考業務(近代中国研究事務室において常時遂行)

(3) 図書・資料の収集, 整理

区 分	和 漢 書	洋 書	マイクロ・フィルム資料
数 量	1,336冊	149冊	24リール

(4) 研究成果の刊行

①『近代中国研究彙報 第9号』 A5判 1冊 (刊行済)

iv 研究員委会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は, 5部門12研究委員会にわかれる。昭和61年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第1部 中国研究

東亜考古学:関野 雄

古代史:越智重明, 宇都木 章

唐代史(敦煌文献):榎 一雄, 池田 温, 菊池英夫, 土肥義和, 藤枝 晃, 松本 明

宋代史：草野　靖，佐伯　富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，千葉　熒，中嶋　敏
渡辺紘良
明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，和田博徳，渡辺　宏
近代中国：市古宙三，河鰭源治，滋賀秀三，田中正俊，丁　　果，本庄比佐子
矢沢利彦

第２部　日本研究
日本：石塚晴通，岩生成一，海野一隆，亀井　孝，酒井憲二，佐竹昭広，田中時彦
杤尾　武，鳥海　靖，林　　望，柳田征司

第３部　東北アジア研究
満州・蒙古（清代史）：榎　一雄，石橋崇雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤
朝鮮：河野六郎，末松保和，田川孝三，武田幸男，古屋昭弘，森岡　康

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究
中央アジア・イスラム：榎　一雄，梅村　坦，後藤　明，小松久男，佐藤次高，清水宏祐
志茂碩敏，永田雄三，花田宇秋，本田實信，護　雅夫，八尾師 誠
チベット：榎　一雄，川崎信定，北村　甫，松濤誠達，山口瑞鳳，ソナム・チュンペール

第５部　インド・東南アジア研究
南方史：荒　松雄，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，原　　實，三根谷　徹，山崎元一
山本達郎

2.　学術図書出版

東洋文庫和文紀要
『東洋学報』　第68巻第１・２号　昭和62年１月刊　Ａ５判　187頁
『東洋学報』　第68巻第３・４号　昭和62年３月刊　Ａ５判　182頁

東洋文庫欧文紀要
"Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko" No.44　1986年刊
Ｂ５判　132頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第11分冊　昭和62年3月刊　B5判　100頁

『西蔵仏教宗義研究　第五巻 ― トウカン『一切宗義』「カギュ派」の章 ― 」 昭和62年3月刊　B5判　229頁

『「量評釈」に対するチベット註釈家による科段の比較対称表』　昭和61年11月刊　B4判　157頁

『チベット特別調査研究年次報告（昭和61年度版）』昭和62年3月刊　A5判　8頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第9号　昭和62年3月刊　A5判　86頁

近代中国研究委員会　（昭和61年度特別研究資料出版担当）

『「解放日報」記事目録 V ― Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, 人名索引 ― 』　昭和62年3月刊　B5判　201頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録 ― 和書・中国書・朝鮮書・安南書・近代中国和書中国書 ― 』　第34号　昭和62年3月刊　B5判　150頁

『東洋文庫書報』第18号　昭和62年3月刊　A5判　143頁

『東洋文庫年報』昭和60年度版　昭和62年3月刊　A5判　68頁

『東洋文庫所蔵漢籍分類目録　史部』　昭和61年12月刊　B5判　593頁

『Tunhuang and Turfan Documents Ⅱ ― Census Registers (A) (B) ― 』　昭和62年3月刊　A4判　506頁

3. 講　演　会

春期　東洋学講座

第365回　昭和61年5月27日（火）

「パリ平和会議における人種差別撤廃問題と日本～東と西の狭間で～」　東洋文庫研究員　東京大学教授　鳥海　靖氏

第366回　昭和61年6月3日（火）

「北京の四天王堂の変遷」　東洋文庫研究員　埼玉大学名誉教授　矢沢利彦氏

第367回　昭和61年6月10日（火）

「トルファン出土写本のはなし」　東洋文庫研究員
京都大学名誉教授　藤枝　晃氏

第368回　昭和61年6月17日（火）

「古代インドのシンボリズム
～ヴェーダ聖典の一説話をめぐって～」　東洋文庫研究員
大正大学教授　松濤誠達氏

秋期　東洋学講座

第369回　昭和61年10月21日（火）

「周王朝の系統について」　仏教大学教授
京都大学名誉教授　佐藤　長氏

第370回　昭和61年10月28日（火）

「マテオ・リッチと章潢
～世界地図をめぐって～」　東洋文庫研究員
明浄女子短期大学教授　海野一隆氏

第371回　昭和61年11月4日（火）

「秦漢時代における造営機構の一側面」　東洋文庫研究員
東京大学名誉教授　関野　雄氏

第372回　昭和61年11月11日（火）

「近年における中国人口史の研究」　東洋文庫研究員
東京大学教授　斯波義信氏

特別講演会（不定期）

第1回　昭和61年7月19日（土）

「中国における民族研究の現状」　中国社会科学院
民族研究所副所長　杜　栄坤氏

「中国における西夏研究」　〃　副研究員　史　金波氏

第2回　昭和61年11月8日（土）

「中国歴代行政区画概述
～『中国歴史地図集』刊行によせて～」　上海・復旦大学
歴史系教授　譚　其驤氏

4.　研究者養成

インド研究　金沢　篤　「中世ヒンドゥー教史　～前・後ミーマーンサー哲学文献の研究～」

イラン研究　小牧昌平　「18・19世紀のイランにおける国家統治機構の変遷と展開
～官僚制度の成長過程の検討を通して～」

中央アジア研究　片山章雄　「古代トルコ民族史の研究」

5.　学術情報提供

i　研究者の交流及び便宜供与サービス

(1)　国内研究者の長期受入

(2)　外国人研究者の長期受入

姜　鎮慶	中国社会科学院 歴史研究所副研究員	「明清社会経済史研究　～特に土地制度，税制，商品流通問題を中心として～」（昭和60年7月以降1ケ年間）（国際交流基金の招聘）（62年5月まで受入延長）
丁　　果	中国上海師範大学 歴史系助手	「近代日中関係及び日本近現代史の研究」（昭和59年10月以降2ケ年間）（中国政府派遣）
林　恩顕	台湾国立政治大学教授	「中国辺彊研究の現状」（昭和60年8月以降1ケ年間）（台北中国国家科学委員会派遣）（61年7月帰国）

(3)　研究者の派遣

(4)　外国人研究者の便宜供与

Australia

Igor de Rechewiltz	Senior Fellow at Australian National Univ.

Bhutan

Nima Gyeltshen	ブータン国立図書館館員

Canada

Daniel Bryant	Ass. Prof., Univ. of Victoria

Central African Republic

Alphonse Blague	Prof., Univ. of Bangui

France

M. C. Bérgère	国立東方語言学院教授
V. Sissaouri	〃　（助教授）

Iran

Ahmad Tafazzoli	テヘラン大学言語学科教授
Abū al-Qāsim Khazálī	イラン・イスラム共和国護憲委員会委員
Sharīf Khudā'ī	駐日イラン大使館員

Korea

金　得榥　　文学博士，大陸文化研究会
姜　信沆　　成均館大学校（教　授）
千　恵鳳　　〃　（教　授）
閔　斗基　　Seoul　大学校歴史系教授
尹　炳泰　　国立忠南大学校（教授）
丁　奎福　　高麗大学校　（教授）
李　炳柱　　嶺南大学校史学科教授

People's Republic of China

杜　栄坤　　中国社会科学院民族研究所副所長
史　金波　　〃　　〃　副研究員
張　承志　　〃　　〃　助理研究員
張　恵英　　〃　　語言研究所（副研究員）
李　宗一　　〃　　近代史研究所副所長（研究員）
尚　明軒　　〃　　〃　副研究員
韓　延龍　　〃　　法学研究所副教授
常　兆儒　　〃　　〃　　〃
馬　良春　　〃　　文学研究所　（研究員）
張　政烺　　〃　　〃　（研究員）
王　暁秋　　北京大学歴史系副教授
沈　祖煒　　上海社会科学院経済研究所　（研究員）
胡　従経　　〃　　文学研究所　（研究員）
虚　漢超　　中国社会科学院歴史研究所　（研究員）
関　　捷　　大連・東北民族学院副教授
呉　　傑　　上海復旦大学歴史系教授
樊　樹志　　〃　　〃　副教授
姜　森和　　〃　　〃　（副教授）
姜　義華　　〃　　〃　教授
譚　其驤　　〃　　〃　教授
王　妙発　　〃　　〃　講師
黄　　霖　　〃　　〃　副教授
呉　　悦　　〃　　助手
烏　　蘭　　中国内蒙古大学蒙古史研究所講師
樹徳道結　　〃　　〃　（教授）
張　永嘉　　北京図書館館員
王　緒芳　　〃　〃

韓　徳呂　　北京図書館館員

金　風吉　　〃　〃

安　　雲　　中国東北三省朝鮮語文協作小組弁公室主任

阿.穆.伊明　新疆大学中文系教授

王　維麟　　河南大学歴史系教授

張　紫晨　　北京師範大学（教授）

黄　候興　　郭沫若著作編輯出版委員会（委員）

Republic of China

Ting Huang　国立政治大学歴史系助教授

未　柏松　　台湾大学法律学系助教授

邱　徳修　　台北師範大学国文系助教授

宋　　晞　　中国文化大学（教授）

蔡　茂松　　中国成功大学（教授）

Senegal

Doudou Dicène　ユネスコ・パリ本部対外関係・情報セクター担当副事務局長補

Thailand

Wanna Topibulpong　タマサート大学経済学部図書館司書

Turkey

Nurhan Atasoy　Prof., Dr., Istanbul Univ.

United Kingdom

Trevor Leggett　London Univ. Graduate.

U.S.A

Jhon Timothy Wixted　Ass. Prof., Asian Language and Literatures, Arizona State Univ.

Joseph I. Chang　Reference Librarian, Columbia Univ.

D.R.Reynolds　Ass. Prof., Department of History, Georgia State Univ.

Allan, Barr　Ass. Prof., California Univ.

Ronald P. Loftus　Ass. Prof., Willamette Univ. (Oregon)

Joshua Fogel　Prof., Fairbank Center, Harvard Univ.

U.S.S.R.

G.M. Bongard-Levin　Dr., Chief, Department of Ancient Orient, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences of the U.S.S.R., Moscow.

Klimov Vadim　Researcher, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences (Leningrad Branch).

G.F.クナーゼ　在日ソ連大使館館員

ii　研究会等への会場提供サービス

月 / 回数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
研究会等回数	6	6	10	19	26	6	4	7	7	6	6	9	112回
参加人数	105	113	233	381	527	61	62	138	66	81	73	84	1,924人

iii　研究資料の複刻・増刷・刊行サービス

1　部	100冊

（Tunhuang and Turfan Documents Ⅱ
— Census Registers (A) (B) —の刊行）

（なお，「図書資料の閲覧（協力）サービス」「研究資料複写サービス」の事業報告については，Ⅱ．図書事業の部に，便宜上，掲載した。）

6. 職員の研究業績

期間：昭和61年4月1日～昭和62年3月31日まで
略号：①…著書　②…編書（共著）　③…論文　④…学会動向　⑤…書評・紹介
⑥…翻訳　⑦…講演・研究発表　⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

池田　温

③「吐魯番，敦煌契券概観」（漢学研究4巻2期，9～57頁，1986年12月），「天長節管見」（『日本古代の政治と文化』，319～357頁，吉川弘文館，1987年2月），「東亜古代籍帳管見」（林天蔚・黄約瑟主編『古代中韓日関係研究，中古史研討会論文集の一』103～125頁，1987年），④「中国敦煌吐魯番学術討論会（1985）」（古代文化38－10，42～44頁，1986年10月），⑤「船越泰次編『宋白続通典輯本　附解題』」（法制史研究36，309～311頁，1987年3月），「山本達郎「敦煌地方における均田制枠外の田土の存在」「敦煌発見の唐代籍帳にみえる已受田の増減」」（法制史研究36，352～354頁，1987年3月），⑥「姜伯勤「敦煌・吐魯番とシルクロード上のソグド人」」②③（季刊東西交渉5－2，3，26～36，28～33頁，1986年6，9月），⑦「トゥルファン文書の世界」（史学会大会，1986年11月8日，要旨；史学雑誌95－12，89～91頁，1986年12月），⑧「敦煌漢文文書の整理研究」（三島海雲記念財団第23回事業報告書，昭和60年度，193～195頁，1986年10月），「国際都市長安」（『海外視点日本の歴史4　遣唐使と正倉院』，76～88頁，ぎょうせい，1986年12月）。

石橋　崇雄

②『戦国の兵法家 ― 孫子と戦国時代 ― 』<中国の歴史1>（編集参与，中央公論社，1986年5月，128頁），『宿命のライバル ― 項羽と劉邦 ― 』<中国の歴史2>（編集参与，中央公論社，1986年6月，128頁），『世界一の歴史家 ― 司馬遷と『史記』 ―』<中国の歴史3>（編集参与，中央公論社，1986年7月，128頁），『英雄たちの時代― 孔明と三国志 ― 』<中国の歴史4>（編集参与，中央公論社，1986年8月，128頁），『大運河の建設 ― 隋の煬帝 ― 』<中国の歴史5>（編集参与，中央公論社，1986年9月，128頁），『世界の都，長安 ― 唐の玄宗皇帝と楊貴妃 ― 』<中国の歴史6>（編集参与，中央公論社，1986年10月，128頁），『シルクロードの旅 ― 三蔵法師と『大唐西域記』 ― 』<中国の歴史7>（編集参与，中央公論社，1986年11月，128頁），『水滸伝の豪傑たち ― 歴史をうつす武勇伝 ― 』<中国の歴史8>（編集参与，中央公論社，1986年12月，128頁），『大草原からの風 ― チンギス・ハンの世界帝国 ― 』<中国の歴史9>（編集参与，中央公論社，1987年1月，128頁），『南十字星のかなた

へ — 明の鄭和の大航海 — 』<中国の歴史10>（編集参与，中央公論社，1987年2月，128頁），『清帝国のたそがれ — 西太后と義和団事件 — 』<中国の歴史11>（編集参与，中央公論社，1987年3月，128頁），③「一九八四年日本研究清史概況」（清史研究通訊1986年第1期，41～43頁，中国人民大学，1986年1月），「史学雑誌一九八四年の歴史学界 — 回顧と展望 — 明清史部」（明史研究通訊1，46～56頁，中華民国明史座談会，1986年9月），「満文文書について」（『東洋文化研究所所蔵　中国土地文書目録・解説（下）』，185～202頁，東京大学東洋文化研究所付属東洋学文献センター，1986年12月），⑦「清初皇権的形成過程」（清史国際学術討論会，1986年7月26日），「『欽定八旗則例』考」（中国域外漢籍国際学術会議，1986年9月28日）。

海野　一隆

③「江戸鳥瞰図の創始者（補遺）」（月刊古地図研究17－7，2～8頁，日本地図資料協会，1986年9月），「岡沢氏所蔵日本図屏風について」（同上18－1，2～4頁，1987年3月），④「マテオ・リッチ，マルチーノ・マルチーニを記念しての三つの国際会議（海外東方学界消息71）」（東方学72，160～169頁，東方学会，1986年7月），⑤「織田武雄監修，中務哲郎訳『プトレマイオス地理学』（地図情報6－2，26頁，(財)地図情報センター，1986年9月），「宋版『禹貢論山川地理図』現存の意義」（東方72，26～28頁，東方書店，1987年3月），⑦"European Cartography of Korea in the Sixteenth and Seventeenth Centuries"（第3回日韓科学史セミナー，韓国ソウル市，韓国外国語大学，1986年10月25日），⑧"Japan"，"Japanische Kartographie"（Lexikon zur Geschichte der Kartographie, von I. Kretschmer, J. Dörflinger und F. Wawrik, Bd. C／1，s. 357－366，Franz Deuticke, Wien, 1986），「図と書」（東亜4月号，7～9頁，(財)霞山会，1986年4月），「英国図書館」（地図情報6－3，22～23頁，(財) 地図情報センター，1986年12月）。

榎　一雄

③"Mdo＝Amdo＝Ch' êng－tu"（In：Orientalia Iosephi Tucci Memoriae Dicata, Roma：Istituto Italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1985，〔Serie Orientale Roma, LVI, 1〕，pp. 319～323），「新疆の建省(四)，(五)」（近代中国18，44～59頁，同19，48～82頁，厳南堂書店，1986年2月，1987年3月），"The Liang chih－kung－t'u 梁職貢図"（Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, 42, 1984, pp. 75～138），「その後の邪馬台国」（季刊邪馬台国28，24～36頁，梓書院，1986年6月），「明末のマカオ(八)，(九)，(十)」（季刊東西交渉5－2・3・4，14～19，14～21，14～22頁，井草出版，1986年6月，9月，12月），「『魏志』「倭人伝」とその周辺 — テキストを

検討する ―（十三），（十四）」（季刊邪馬台国29・30，248～261，210～228頁，梓書院，1986年10月，1987年1月），⑦「東洋文庫五十年 ― 文化施設の将来 ― 」（第181回向陵懇話会，神田学士会館，1986年12月1日），「東西をかけるサーカス」（NHK文化講演会，15，長野県更植市老人福祉センター，1986年3月20日），⑧「石田幹之助略伝」（石田幹之助著作集第四巻，373～396頁，六興出版，1986年4月），「マルコ・ポーロとイブン・バットゥータ」・「東南アジア多島海」（週刊朝日百科・日本の歴史，11，中世1－Ⅱ，1250年の世界，335・338頁，朝日新聞社，1986年6月），「長瀬昇三と河野與一」（回想河野與一多麻，443～453頁，「河野先生の思い出」刊行会，1986年7月），「白鳥先生と津田博士」（津田左右吉全集，第2巻月報（第二次），3～7頁，岩波書店，1986年10月），「東西をかけるサーカス」（NHK文化講演会，15，168～185頁，日本放送出版協会，1986年3月）。

越智　重明

③「秦の国家財政制度」（東洋史論集15，1～21頁，九州大学東洋史研究会，1986年年12月）。

岡田　英弘

①『チンギス・ハーン』（『中国の英傑』9，集英社，1986年12月，262頁），④「特集＝第32回国際アジア・北アフリカ研究会議（ICANAS）部会報告・内陸アジア史」（東方学会報51，17～18頁，東方学会，1986年12月），「国際中国少数民族言語文化歴史シンポジウム」（通信58，37～39頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1986年12月），「第32回国際アジア・北アフリカ研究会議」（通信58，43～46頁，同上，1986年12月），「第29回国際アルタイ学会」（通信59，43～47頁，同上，1987年3月），⑥「イーゴル・デ・ラケヴィルツ著，チンギス・ハーンと空気銃」（通信57，23頁，同上，1986年8月），⑦「満洲民族は如何に中国を創ったか」（新井経済研究所エグゼクティブ・アカデミー，1986年4月7日，『エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ』所載），"Dayan Khan in the Battle of Dalan Terigün."（第32回国際アジア・北アフリカ研究会議International Congress for Asian and North African Studies, Hamburg, West Germany, 1986年8月25－30日），"The Fall of the Uriyangqan Mongols."（第29回国際アルタイ学会 The 29th Meeting of Permanent International Altaistic Conference, PIAC, Tashkent, Uzbekistan, USSR, 1986年9月15－20日），「日本人単一民族論の再検討－特に東北アジアの歴史の中で－」（新井経済研究所エグゼクティブ・アカデミー，1986年12月23日，『エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ』所載），⑧「古代青銅器の謎」（NHKラジオ第二放送（再放送），1986年4月29日），「海外事情報告・国際

中国少数民族言語文化歴史シンポジウム（アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタバーバラ，1986年1月26－29日）」（第23回野尻湖クリルタイ，1986年7月20－23日），「＜プロフィル＞イーゴル・デ・ラケヴィルツ博士」，（通信57，22頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1986年8月）。

河鰭　源治

⑤「郭毅生著『太平天国経済制度』」（近代中国18，18～29頁，巌南堂書店，1986年6月）。

クリスチャン・ダニエルズ

⑧「近代の甘味西東」（東方64，2～5頁，東方書店，1986年7月），「中国の社会・風俗（2）―葬礼―」（千慮一得13，122頁，1986年10月），「食は台北にあり」（千慮一得14，13～17頁，1986年12月）。

小松　久男

③「アンディジャン蜂起とイシャーン」（東洋史研究44－4，1～31頁，東洋史研究会，1986年3月），⑦「Andican Ayaklanması ve İşan」（10. Türk Tarih Kongresi（第10回トルコ歴史学会）（於Ankara），1986年9月24日）。

後藤　晃

③「ムハンマド伝の史料に関する覚書（11）」（山形大学史学論集7，1～13頁，山形大学人文学部・教養部史学研究室，1987年2月），④「第二三回野尻湖クリルタイ」（東洋学報68，1・2，85～97頁，東洋文庫，1987年1月），⑦「アラブとイスラーム」（福島県県北高等学校社会科研究会春季研究大会，1986年5月23日），⑧「座談会・多民族国家の成立と課題」（国際協力1986－10，6～11頁，1986年10月），「歴史から学ぶ―歴史意識に対する疑問―」（ニッポニカ通信〔日本大百科全書・月報〕12，3～5頁，小学館，1986年11月），「座談会・『世界史』の編集を終えて」（高校通信・東書〔日本史・世界史〕130，10～17頁，東京書籍）。

佐竹　昭広

①『古語雑談』（岩波書店，1986年9月，207頁），③「学ぶこと」（成城教育53，1～8頁，成城学園教育研究所，1986年9月），「『本朝二十不孝』私見」（成城文芸117，1～11頁，成城大学文芸学部，1986年12月），「大阪に後世願ひ屋」（成城国文学3，1～9頁，成城国文学会，1987年3月）。

佐藤　次高

①『中世イスラム国家とアラブ社会 ― イクター制の研究 ― 』（山川出版社，1986年9月，xiv＋444＋85頁），②『イスラム・社会のシステム』（講座イスラム3，筑摩書房，1986年4月，298頁），⑤「自著を語る『中世イスラム国家とアラブ社会 ― イクター制の研究 ― 』」（季刊東西交渉20，39頁，井草出版，1986年12月），⑦「巡礼 ― その社会経済的側面『巡礼と都市・商業』」，（中近東文化センター・シンポジュウム；巡礼 ― Part Ⅱ，1986年10月10日），⑧「昭和61年度史学会例会；アジアの都市 ― 寧波・カルカッタ・マニラを中心に ― 」（史学会大会，1986年11月8日，討論要旨；史学雑誌95－9，93～94頁，1986年9月）。

酒井　憲二

②『寛永諸家系図伝　第九，第十』（校訂協力，続群書類従完成会，1986年6月，276頁，1986年12月，262頁），③「新資料『甲陽軍鑑末書』について(2)」（季刊日本思想史26，98～116頁，1986年5月），「中世国語資料としての『甲陽軍鑑』」（文学54－10，98～120頁，1986年10月），「雑筆抄」（共同研究・山田忠雄編『国語史学の為に』，1～293頁，笠間書院，1986年5月），「百候往来について」（同483～526頁），「実語教童子教の古本について」（同575～645頁），「『両仮名雑字尽』の版種」（同第2冊，487～521頁），「静嘉堂文庫『童訓集』の本文性」（同523～557頁），⑧「岩崎文庫貴重書書誌解題稿（三）」（分担執筆・東洋文庫書報18，1～27頁，1987年3月）。

滋賀　秀三

③「崇明島の承価と過投 ― 寺田浩明氏論考の驥尾に附して ― 」（千葉大学法学論集1－1，1～50頁，千葉大学法経学部法学科，1986年9月）。

関野　　雄

②『大黄河文明の流れ 山東省文物展 図録』（共編，西武美術館・朝日新聞社，1986年4月，184頁），⑦「秦漢時代における造営機構の一側面」（東洋文庫秋期東洋学講座，1986年11月4日，要旨：東洋文庫書報18，108・109頁，1987年3月），⑧「長大な歴史の重み ― 大黄河文明展に寄せて ― 」（朝日新聞，1986年8月2日夕刊），「画像塼 ― 『天理参考館蔵品写真集』より ― 」（天理時報，1986年9月21日）。

武田　幸男

③「廣開土王碑の百済と倭」（百済研究17，179～187頁，韓国・忠南大学校百済研究所，1986年12月），「好太王碑の難しさ」（近代詩文書作家協会会報27，3～14頁，近代詩文書作家協会，1986年12月）。

千葉　哭

"Revue ; Bibliographique de Sinologie (Chinese History in Shigaku Zasshi in 1985)Ⅳ, Paris, 1986年11月)。

竺沙　雅章

①「『中国書道全集　第2巻　魏・晋・南北朝』『同　第3巻　隋・唐Ⅰ』『同　第4巻　唐Ⅱ・五代』」(中田勇次郎編, 分担執筆, 平凡社, 247頁, 255頁, 257頁, 1986年5月, 10月, 1987年2月), ③「陳摶と麻衣道者 ― 「若水見僧」逸話をめぐって―」(『道教と宗教文化』, 332～348頁, 平河出版社, 1987年3月), ⑦「司馬光, 王安石与仏教」(紀念司馬光与王安石学術研討会, 1986年6月8月, 台北, 政治大学), 「宋元仏教の南北問題」(講演・北京中国社会科学院宗教研究所, 1986年10月7日)。

鶴見　尚弘

③「日本学界的中国封建論」(中国史研究動態1986年第7期, 23～30頁, 中国社会科学院歴史研究所), ⑧「万里の長城」(Quark 45, 76～89頁, 講談社, 1986年4月)。

杤尾　武

「翻印 玉造小町子壮衰書七種 (上)」(成城国文学論集18, 117～254頁, 成城大学大学院, 1987年2月), 「翻印 玉造小町子壮衰書七種 (下)」(成城文芸119, 229～361頁, 成城大学文芸学部, 1987年5月)。

林　望

「影印本の条件 ― 『役者小夜衣』を例として ― 」(早稲田大学蔵資料影印叢書・月報11, 1986年9月)。

原　實

③"The Holding of the Hair (*Kesa-grahaṇa*)" (Acta Orientalia 47 (1986), Copenhagen, pp. 67－92), "A Note on the Sanskrit Word *śīla*" (The Adyar Library Bulletin, Golden Jubilee Volume (Adyar Madras 1986), pp. 21～45), "A Note on the Pāśupata Concept of *ahiṃsā*" (Rtam vols. XVI－XVIII Shri Gopal Chandra Sinha Commemoration Volume, Lucknow 1986, pp. 145－154), 「インドの『日論神話』― カルナ伝説をめぐって」(東方2, 92～111頁, 東方学院, 1986年), 「インド叙事詩に見られる人間観」(前田専学編『東洋における人間観』, 53～81頁), 東大出版会, 1987年2月, ⑤"Review, G. Bühnemann, Budha-Kauśiká s Rāmarakṣāstotra, A Contribution to

the Study of Sanskrit Devotional Poetry, (Vienna 1985)"(Indo-Iranian Journal 29, (Dortrecht) 1986, pp. 315－320), "Review, J. Scheuer, Śiva dans le Mahābhārata (Paris 1982)"(Orientalistische Liferaturzeitung, pp. 82～84, Leipzig 1986), 「北欧のインド学」(東洋学報68－1・2, 075～084頁, 東洋文庫, 1987年1月)。

藤枝　晃

④「西北研究所の思い出(談話記録)」(奈良史学4〔原山煌・森田憲司編注〕,56～93頁, 奈良大学史学会, 1986年12月), 「進歩六分保守四分の人・貝塚茂樹氏を悼む」(朝日新聞, 1987年2月10日夕刊), ⑦「トルファン出土写本のはなし」(東洋文庫春期東洋学講座, 1986年6月10日, 要旨：東洋文庫書報18, 98～102頁, 1987年3月), 「敦煌・トルファン写本の分期 ― とくに北朝写本について ― 」(内陸アジア史学会公開講演, 1986年11月5日, 岡山市就実女子大学), ⑧「二つの慶寿裂」(山町鉾町19, 33～36頁及び図, 祇園祭山鉾連合会, 1986年7月), 「『画像塼』(ひとものこころ第三巻)」(推薦文, 天理教道友会, 1986年5月), 「『村田治郎著作集』」(推薦文・内容見本, 中公美術出版, 1986年10月), 「秀頼の首」(『人間・木崎国嘉』, 151～157頁, 大阪・木崎国嘉を偲ぶ会, 1986年12月), 「表紙のことば」(言語生活4 ― 12月号, 筑摩書房)。

古屋　昭弘

③「明刊説唱詞話12種の言語」(中国文学研究12, 1～18頁, 早稲田大学中国文学会, 1986年12月), ⑤「石井一二三『改訂中古漢字音字典』」(東方68, 28・29頁, 東方書店, 1986年11月), ⑥「姚瀛艇『中日両国の朱子学研究』」(『東アジア世界史探究』, 54～65頁, 波古書院, 1986年12月),「スタロスチン『上古中国語の声調について』」(開篇, 26～36頁, 早大中文, 1986年10月)。

松涛　誠達

③「プラーナ文献における人間観 ― 世界創造論を通じて ― 」(前田専学編『東洋における人間観』, 83～96頁, 東京大学出版会, 1987年2月), 「古代インドのシンボリズム ― 蟻塚の中の世界 ― 」(三康文化研究所年報18, 1～23頁, 三康文化研究所, 1987年3月)。

矢澤　利彦

③「小泉六一と北京北堂の救困」(近代中国19, 83～105頁, 巌南堂書店, 1987年3月), 「中国の民間宗教行事とキリスト教」(近代中国研究彙報9, 1～25頁, 東洋文庫, 1987

年3月），⑥「アドリアン・グレロン著『東西暦法の対立』」（『清朝初期中国史』，1～370頁，平河出版社，1986年6月），⑦「北京の四天主堂の変遷」（東洋文庫春期東洋学講座，1986年6月3日，要旨：東洋文庫書報18，95～98頁，1987年3月），「中国におけるカトリシズム迫害の一分析」（日仏セミナー・キリスト教とアジア社会，上智大学，1986年10月1日），「日本と中国のキリスト教受容の違い」（国士館大学東洋史講演会，1986年11月15日）。

柳田　征司

②『明恵上人資料第三（高山寺資料叢書第16冊）』（高山寺典籍文書綜合調査団，山口佳紀，奥田勲，小泉春明と共編，東京大学出版会，1987年2月，782頁），③「『玉塵』の原典『韻府群玉』について」（山田忠雄編『国語史学の為に　第二部古辞書』1～80頁，笠間書院，1986年5月），「愛媛県市町村史誌掲出方言語彙集成（一）」（井門香恵，惣谷小百合等と共編，油印，1986年11月，64頁），「月照山大林寺国語国文学資料」（秋山雅美，友岡与史子等と共編，愛媛国文と教育18，27～50頁，愛媛大学教育学部国語国文学会，1986年12月），「室町時代における諸宗派の注釈書 ― 語学資料としての調査の第一歩として ― 」（近代語研究7，21～47頁，近代語学会，1987年2月），「松ケ岡文庫所蔵の仮名抄と研究の現段階」（財団法人松ケ岡文庫研究年報1，65～93頁，松ケ岡文庫，1987年2月），「上代車部方言の性格」（愛媛大学教育学部紀要第Ⅱ部人文・社会科学19，21～56頁，愛媛大学教育学部，1987年2月），「岩崎文庫貴重書書誌解題稿（三）」（酒井憲二，杤尾武，石塚晴通と共編，東洋文庫書報18，1～27頁，東洋文庫，1987年3月），⑤「一字一字に情熱を注ぎ込む　ユアン・デ・ルエダ著，三橋健・宮本義男翻字註『ロザリヨ記録』」（愛媛新聞，1986年11月3日），「〔書評〕前田富祺『国語語彙史研究』」（国語学147，42～47頁，国語学会，1986年12月），「生き生き　祖先の造語力　篠崎充男編『宇和島の方言　話と語彙』」（愛媛新聞，1987年3月2日），⑦「方言再発見」（文化振興財団セミナー・久万町町民大学，1986年7月21日），「愛媛の方言と文学」（愛媛近現代文学資料研究懇話会，1986年9月27日），⑧「抄物しょうもの」（『日本大百科全書』12，小学館，1986年11月），「方言の価値」（坊っちゃん列車43，155～172頁，作文の会，1987年3月）。

山崎　元一

①『古代インド社会の研究 ― 社会の構造と庶民・下層民 ― 』（刀水書房，1987年1月，482頁），③「古代インドの差別 ― シュードラと不可触民 ― 」（西順蔵・小島晋治編『アジアの差別問題』，83～149頁，明石書店，1986年12月），⑤ボンガルド・レーヴィン著『マウリヤ時代のインド』（東洋学報68－3・4，133～140頁，1987年3月），「白井駿著『古代インドの刑法思想』」（国学院雑誌24－1，157～161頁，1986年7月），

⑥「ロミラ・ターパル著『国家の起源と伝承 ― 古代インド社会史論 ― 』」（成沢光と共訳，法政大学出版局，1986年6月，321頁），⑧「アンベードカルと『ブッダとそのダンマ』」（アンベードカル著・山際素男訳『ブッダとそのダンマ』，415～425頁，三一書房，1987年3月），「インド文明の転変」（『週刊朝日百科・日本の歴史』40，古代文明の成立，201～206頁，朝日新聞社，1987年1月），「インド小史」（森本哲郎編『聖なる幻想の宇宙 ― インド ― 』（世界・知の旅2），243～247頁，小学館，1986年7月）。

山根　幸夫

③「明帝国の成立とアジアの国々」（海外視点・日本の歴史7『大明国と倭寇』ぎょうせい，1986年8月，34～40頁），「袁世凱与日本人」（周啓乾・郭薀静共訳，天津文史資料選輯37，79～89頁，中国人民政治協商会議天津市委員会文史資料研究委員会，1986年10月），「明末農民起義与紳士階層的反応」（馮佐哲訳，晋陽学刊1986－2，74～79頁，山西省社会科学院，1986年3月），⑤「浙江省社会科学院歴史研究所・嘉興図書館『嘉興府城鎮経済資料類纂』」（東洋学報68－1・2，71～77頁，東洋文庫，1987年1月），「明代史期刊二種の創刊」（東洋学報68－3・4，129～133頁，東洋文庫，1987年3月），⑥「呉金成「明代紳士層の社会移動について」下」（明代史研究15，47～66頁，明代史研究会，1987年3月），⑦「広東黄蕭養の乱」（京大人文科学研究所明清研究班例会，1987年2月3日），⑧「グドリッチ教授の逝去を悼む」（明代史研究15，1～4頁，明代史研究会，1987年3月），「中国の歴史研究機関」（史論40，53～58頁，東京女子大学読史会，1987年3月），「『史論』創刊のころ」（史論40，14頁，東京女子大学学会，1987年3月），「韓国における明代史研究文献目録」（明代史研究15，85頁，明代史研究会，1987年3月）。

渡辺　宏

②『マルコ・ポーロ書誌1477－1983』（東洋文庫，1986年，x＋345頁），③「世界誌のゲール語写本とアルスナル図書館の挿絵本」（季刊東西交渉5－4，24～29頁，口絵4頁，井草出版，1986年12月），⑧「自編を語る ― 渡辺宏（編）『マルコ・ポーロ書誌1477－1983』，東洋文庫，1986年刊」（季刊東西交渉5－3，38～39頁，井草出版，1986年6月），「東方見聞録の蒐書」（日本古書通信51－10，22頁，日本古書通信社，1986年10月）。

渡辺　紘良

③「宋代在郷の士大夫について」（史潮新19，67～79頁，歴史学会，1986年7月），⑤「天保10年伊勢参りの記録（二）」（獨協医科大学教養医学科紀要9，1～35頁，獨協医科大学教養医学科，1986年12月），「父の蔵書」（『明男物語 ― 渡辺民治の生涯と作品 ― 』上巻，216～219頁，渡辺民治追悼誌刊行会，1986年11月）。

Ⅳ 業務報告

1. 総務報告

i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理事会

第258回　開催日　昭和61年6月10日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光次郎，市古宙三，小笠原光雄，河野六郎，田中正俊
林　健太郎，護　雅夫，奥野　高，播磨俊雄
委任状　坂本太郎，中村俊雄，松本重治

第259回　開催日　昭和61年6月10日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光次郎，市古宙三，小笠原光雄，河野六郎，田中正俊
林　健太郎，護　雅夫，奥野　高，播磨俊雄
委任状　坂本太郎，中村俊雄，松本重治

第260回　開催日　昭和61年12月9日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光次郎，市古宙三，小笠原光雄，河野六郎，林　健太郎，山本達郎，奥野　高，播磨俊雄
委任状　坂本太郎，田中正俊，中村俊雄，松本重治

第261回　開催日　昭和62年3月24日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光次郎，河野六郎，林　健太郎，山本達郎，奥野　高
播磨俊雄
委任状　市古宙三，小笠原光雄，田中正俊，中村俊男，松本重治

第262回　開催日　昭和62年3月24日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光次郎，河野六郎，林　健太郎，山本達郎，奥野　高
播磨俊雄
委任状　市古宙三，小笠原光雄，田中正俊，中村俊雄，松本重治

評議員会

第118回　開催日　昭和61年6月10日（火曜日）

出席者　岡野　澄，亀井　孝，神田信夫，関野　雄，中嶋　敏，前田充明
委任状　石川忠雄，田部文一郎，中田乙一，中山素平，西島安則，西原春夫
長谷川周重，日比野丈夫，森　　亘

第119回　開催日　昭和62年3月24日（火曜日）
出席者　亀井　孝，関野　雄，中嶋　敏，前田充明
委任状　石川忠雄，岡野　澄，神田信夫，田部文一郎，中田乙一，中山素平
西島安則，西原春夫，長谷川周重，日比野丈夫，森　　亘

ii　東洋学連絡委員会の開催

前　期　開催日　昭和61年5月27日（火曜日）
出席者　榎　一雄（委員長），市古宙三，岩生成一，佐藤　長，中嶋　敏
日比野丈夫，福井康順，宮崎市定，山本達郎
議　題　1. 昭和60年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 昭和61年度財団法人東洋文庫事業計画について

後　期　開催日　昭和61年11月25日（火曜日）
出席者　榎　一雄（委員長），市古宙三，岩生成一，中嶋　敏，本田實信
宮崎市定
議　題　1. 昭和61年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2. 昭和62年度財団法人東洋文庫事業計画案について

2. 人事報告

i 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 2. 16	理事	坂本太郎	逝去	

ii 委員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
62. 2. 9	東洋学連絡委員会委員	貝塚茂樹	逝去	

iii 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
61. 4. 1	研究部長	護　雅夫	就任	
〃	総務部長	田中満利	〃	
〃	研究部長代理	田中正俊	〃	
〃	総務部長補佐	松本　明	〃	
〃	研究員（兼任）	石橋崇雄	委嘱	
〃	〃	Christian A. Daniels	〃	
〃	研究員（奨励）	片山章雄	就任	
〃	研究員	志茂碩敏	〃	
〃	総務部長	早船艶雄	退任	（61. 4. 10）
61. 9. 1	参事	清村勝二	就職	
62 3. 31	〃	谷治嘉紀	退職	
〃	司書	児野寿満子	〃	
〃	研究員（奨励）	金沢　篤	退任	
〃	〃	小牧昌平	〃	

iv 受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
61. 11. 3	理事	山本達郎	顕彰	文化功労者
〃	研究員（兼任）	北村　甫	叙勲	紫綬褒章
61. 11. 5	〃	矢沢利彦	〃	勲三等旭日中綬章
62. 12. 12	理事	河野六郎	選任	日本学士院会員
62. 3. 14	評議員	沢田敏男	受賞	日本学士院賞

V 役職員名簿

昭和62年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏名	現職
理事長	榎　一雄	財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理事	有光次郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
〃	田中正俊	信州大学教授
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林　健太郎	参議院議員 東京大学名誉教授
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長
〃	護　雅夫	日本大学教授 東京大学名誉教授
〃	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	奥野　高	前財団法人三菱財団常務理事
〃	播磨俊雄	三菱金曜会事務局長

役職名	氏名	現職
評議員	石川忠雄	慶応義塾長 慶応義塾大学学長
〃	岡野澄	全国国立高等専門学校協会会長 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員
〃	亀井孝	一橋大学名誉教授
〃	神田信夫	明治大学教授
〃	関野雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社取締役相談役
〃	中山素平	株式会社日本興業銀行特別顧問
〃	西島安則	京都大学学長
〃	西原春夫	早稲田大学総長
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社取締役相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター顧問
〃	森亘	東京大学学長

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	榎一雄	（前掲出）
常任委員	山本達郎	〃
委員	市古宙三	〃
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	小川環樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
〃	佐藤長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋敏	（前掲出）
〃	日比野丈夫	〃
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	本田實信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏名	現職
W．T．デ・バリイ	コロンビア大学教授
E．O．ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
A．フオン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J．ヂエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H．フランケ	ミュンヘン大学教授
L．ペテック	ローマ大学教授

4. 職　　員

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	部　　長	護　　雅　夫	（前　　掲　　出）
	部長代理	田　中　正　俊	〃
	部長補佐	佐　藤　次　高	東京大学助教授
	研究顧問	村　田　治　郎	京都大学名誉教授
	研究員（兼任）	荒　　松　雄	津田塾大学教授
	〃	池　田　　温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	石　塚　晴　通	北海道大学助教授
	〃	石　橋　崇　雄	国士館大学専任講師
	〃	市　古　宙　三	（前　　掲　　出）
	〃	岩　生　成　一	〃
	〃	宇都木　　章	青山学院大学教授
	〃	梅　村　　坦	立正大学専任講師
	〃	海　野　一　隆	明浄女子短期大学教授
	〃	越　智　重　明	九州大学教授
	〃	岡　田　英　弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀　井　　孝	（前　　掲　　出）
	〃	川　崎　信　定	筑波大学教授
	〃	河　鰭　源　治	愛知大学講師
	〃	神　田　信　夫	（前　　掲　　出）
	〃	菊　地　英　夫	北海道大学教授
	〃	北　村　　甫	麗澤大学教授
	〃	草　野　　靖	熊本大学教授
	〃	クリスチャン A・ダニエルズ	附置ユネスコ東アジア文化研究センター専門委員
	〃	小　松　久　男	東海大学専任講師
	〃	河　野　六　郎	（前　　掲　　出）
	〃	後　藤　　明	山形大学助教授
	〃	後　藤　均　平	立教大学教授
	〃	佐　伯　　冨	京都大学名誉教授
	〃	佐　竹　昭　広	成城大学教授

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	酒井憲二	図書館情報大学教授
	〃	斯波義信	東京大学教授
	〃	滋賀秀三	千葉大学教授
	〃	志茂碩敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	清水宏祐	東京外国語大学助教授
	〃	周藤吉之	元東京大学教授
	〃	末松保和	学習院大学名誉教授
	〃	鈴木立子	愛知大学助教授
	〃	関野雄	東京大学名誉教授
	〃	田川孝三	元東京大学講師
	〃	田中時彦	東海大学教授
	〃	武田幸男	東京大学教授
	〃	千葉𡸁	桐朋学園大学短期大学部教授
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	朽尾武	成城大学教授
	〃	土肥義和	国学院大学教授
	〃	鳥海靖	東京大学教授
	〃	中嶋敏	（前掲出）
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	八尾師誠	東京外国語大学専任講師
	〃	花田宇秋	明治学院大学助教授
	〃	林望	東横学園女子短期大学助教授
	〃	原實	東京大学教授
	〃	藤枝晃	京都大学名誉教授
	〃	古屋昭弘	早稲田大学助教授
	〃	本田實信	（前掲出）
	〃	松濤誠達	大正大学教授
	〃	松村潤	附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長，日本大学教授
	〃	三根谷徹	国学院大学教授
	〃	森岡康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	矢　沢　利　彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳　田　征　司	愛媛大学教授
	〃	山　口　瑞　鳳	名古屋大学教授
	〃	山　崎　元　一	国学院大学教授
	〃	山　根　幸　夫	東京女子大学教授
	〃	山　本　達　郎	（　前　掲　出　）
	〃	和　田　博　徳	慶応義塾大学教授
	〃	渡　辺　　宏	東洋大学アジア・アフリカ研究所研究員
		渡　辺　紘　良	独協医科大学助教授
	研究員（専任）	松　本　　明	

部　名	職　名	氏　　名
図書部	部　　長	榎　一　雄
	東洋文庫長	渡　辺　兼　庸*
	主　　査	小　山　　勲*
	副　主　査	池　田　直　人*，志　茂　碩　敏*，竹之内　信　子*
	〃	児　野　寿満子，　秩　父　良　子*，広　瀬　洋　子*
	事務主任	小　林　輝　男*
	係　　員	浅　野　千　秋，　西　薗　一　男
総務部	部　　長	田　中　満　利
	部長補佐	松　本　　明
	課長代理	光　田　憲　雄
	係　　員	金　子　祐　子，　清　村　勝　二，　広　木　節　巳
	〃	谷　治　嘉　紀，　吉　田　男佐武

（＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

5. 臨時職員

部　名	氏　　名
研究部	伊藤　泉美，石川　重雄，石浜裕美子，岩見　　隆，大金　富雄 蓮沼　龍子
図書部	太田　敬子，大稔　哲也，久保田宏次，清水　一枝，下山多美子 鈴木　　修，鈴木由香里，鈴木　立子，関　　喜房，高田　幸男 角田　和夫，仁平　義孝，野沢　靖之，保坂　修司，三宅　克広 渡辺　　修
総務部	中太　葉子，堀内　昭子

Ⅵ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

1.　調査研究事業

1－A．長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【概　要】　本計画は，センターがユネスコ本部に提案し，1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために「アジア地域文化研究機関代表者会議」が，1976（昭和51）年3月，センターが受入機関となって東京で開催された。この会議の決議に基いて，各国で調査研究が進められているが，センターでは本年度，次の三つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1—A—1．「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画延長年度）

【概　要】　変容を遂げつつあるアジア諸国において，都市を中心として展開する人為的な集団の一つである企業をとりあげ，そこに反映されている伝統的文化価値を分析・整理することによって，諸地域の現代的特色を追究しようとするものである。

【専門委員】　中川敬一郎（委員長），菅　俊雄，末広　昭，谷浦孝雄，服部民夫，吉原久仁夫

【事業内容】

専門家会議

7月 5日：Wai Chamornman「タイにおける企業集団の経営分析」

9月17日：丁世昌「現在の中国の企業経営について」

3月30日：谷浦孝雄「韓国と台湾経済のダイナミックス」

1—A—2．「アジア諸国における建築と都市計画」（5年計画第4年度）

【概　要】　現代のアジア諸国では，ヨーロッパ様式の建築が多くとりいれられているが，その受容の過程を，アジアの伝統的建築の構造・機能の観点も含み考察し，合わせて都市化の問題も検討することを目的とし，都市工学・人文・社会科学の領域にわたる学際的研究をおこなう。

【専門委員】　西川幸治（委員長），飯塚キヨ，梅原　郁，応地利明，太田勝敏，斯波義信

【事業内容】

専門委員会

2月 7日：鳴海邦碩「ジャワ・バリにおける集住空間」
2月28日：尹　正淑「韓国における開港場と近代都市形成」
　　金　龍河「韓国における近代港湾都市『仁川』」
3月27日：西川幸治「パキスタン ― その伝統と現状・再生への試み」

1―A―3．「現代アジア諸国における地方都市とその文化」（3年計画最終年度）
【概　要】　現代アジア諸国では伝統的文化と西欧近代文化の接触が，地方都市で顕著にみられる。文化的な国民統合が，多民族国家のアジア諸国で，どのような形で形成されていくのかを，これらの地方都市を人文・社会学的に観察・追究することによって解明する。
【専門委員】　梶原景昭（委員長），大木　昌，関本照夫，田村克己，山下晋司
【事業内容】
専門委員会
7月28日：梶原景昭「文化伝統と文化創造」
9月 8日：内堀基光「ブルネイ王国の現状」
3月13日：梶原景昭「東南アジアの巨大都市と地方都市」
　　関本照夫「ジャワの宮廷都市と植民都市」
　　山下晋司「複製芸術時代の都市空間」

1―B．一般調査研究

1―B―1．「平城京の歴史」（2年計画延長年度）
【概　要】　本プロジェクトはユネスコの実施している調査研究「アジアの古代都市の研究」の一部をなし，日本の古代都市として平城京を中心とした飛鳥，奈良地域をとりあげ，その歴史および遺物の保存に関する報告書を作成する。
【事業内容】　平城京の歴史と遺跡の保存に関する英文報告書を作成し，ユネスコ本部へ提出した。

1―B―2．「日本における東洋学研究の現状と問題点1973－83」（4年計画最終年度）
【概　要】　昭和48年から58年までに発表された東洋学関係の研究業績を部門別に調査し，その現状を記述するとともに，問題点を指摘した報告書を作成することを目的とする。本プロジェクトは昭和47－50年度の調査を継続するものである。
【事業内容】　本年度は以下の領域について，それぞれ報告があった。
アジア研究の部：中国哲学・宗教（戸川芳郎），近・現代内陸アジア（中見立夫），仏教学（江島恵教），現代インド（古賀正則），西アジア・北アフリカ史（16世紀まで）（花田

宇秋）

1—B—3．「長期調査研究計画『現代アジア諸国の社会・文化に関する総合的研究』のための専門家会議」

【概　要】　長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」が終了するのに伴い，今後センターがとりあげていくべき調査研究のテーマ，研究方法，研究体制について検討するため，専門家・研究者の意見を聴取する。

【事業内容】

専門家会議

1月10日：「センターが今後とりあげる研究テーマはどのようなものが適当か」

1月31日：「現在アジア研究において最も欠けており，緊急にとりあげるべきテーマはなにか」

2月21日：「国内研究機関の間におけるユネスコ東アジア文化研究センターの占める位置はいかにあるべきか，センターと国内の研究機関との研究協力体制をどのように確立すべきか」

2.　学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2—A．学術交流

2—A—1．外国人研究者の招聘

コール・ヨク・リム：マレーシア，サイエンス大学人文学部講師　Ms Khor Yoke Lim, Lecturer, Mass Communication Programme, School of Humanities, Universiti Sains Malaysia

招聘期間：3月14日－3月28日

訪問先：NHK，朝日新聞社，日本経済新聞社，北国新聞社，フジテレビ，電通，東京大学新聞研究所，京都大学東南アジア研究センター

2—A—2．研究会の開催

(1) G.M.ボンガード＝レヴィンG.M. Bongard-Levin：ソ連，ソ連科学アカデミー東洋学研究所古代東洋部主任：“New Studies on Buddhist and Central Asian Culture in the USSR”（4月26日，共催東方学会）

(2) 呉　傑：中国，復旦大学歴史系教授：「中国における洋務運動研究の動向」（6月14日）

(3) アフマッド・ハッサン・ダニ A. H. Dani：パキスタン，カーイド・イ・アーザム大学名誉教授："Urbanization of Taxila：Rise and Fall of a Typical South Asian City"（12月20日）

2—A—3．外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（2—A—1．2）以外でセンターを訪れ，センターが情報等の便宜供与をした外国人研究者は以下のとおりである。

Dr. G. M. Bongard-Levin	Chief, Department of Ancient Orient, Institute of Oriental Studies, Academy of Sciences of the USSR, and Corresponding Member, Academy of Sciences of the USSR, Moscow
Dr. Georgi F. Kunadze	First Secretary, Embassy of the USSR, Tokyo
Mr. W. R. Nelson	Graduate Student, Hiroshima University
Dr. Robert L. Cheng	Professor of East Asian Languages, University of Hawaii, Honolulu
張 良 澤	Part-time Lecturer in Chinese, Meiji University, Senshu University, and Tsuda College, Tokyo
Mr. Ts'ao Yung-ho	Researcher, San min chu-i Institute, Academia Sinica, and Professor of History, Taiwan National University, Taipei
Ms. K. Sugano	Regional Expert, Unesco Regional Office, Bangkok
Prof. In Sun Yu	Professor of History, Korea University, Seoul
Prof. Tso Keung Ming	Professor, Department of Far Eastern History, Research School of Pacific Studies, Australian National University, Canberra
Dr. Hayman Gong	Department of Radiology, The Permanente Medical Group, Inc., Hayward, Calif., U. S. A.
Mrs. Chadine Flood Gong	Researcher in Thai history, Los Gatos, Calif., U. S. A.
Dr. A. H. Dani	Honorary Director, Centre for the Study of the Civilizations of Central Asia, Quaid-i-Azam

University, Islamabad

Mr. Kovács Máté　　Programme Specialist, Unesco, Paris

2－B．語学講習会の開催

福建語（閩南語）講習会

期　間：7月21日（月）～8月29日（金）　土・日曜日を除く毎日　午前9時～正午

会　場：東洋文庫講演室

講　師：村上嘉英，巫美美

修了者：15名

2－C．文献目録等の作成

2―C―1．「日本における中央アジア研究文献目録」

昭和53年度～60年度にすすめられた目録の編集作業にひきつづき，今年度は出版準備としてパソコンへのデータ入力を開始した。

2―C―2．「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

「日本における東洋学の回顧と展望　1973－1983」の「アジアの部」のシリーズに付随するものとして，編集をすすめた。

2－D．資料の調査・収集および整理

本事業は，アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか，今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来，とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関する，アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。本年度はトルコ語文献477冊，アラビア語文献129冊を購入し，整理した。

さらにアジア及び日本の地図の充実を図り，アメリカ航空宇宙局作成縮尺100万分の1人工衛星地図のパキスタン地域40枚と国土地理院作成縮尺2万5千分の1日本地形図4000枚を収集した。

2－E．図書の寄贈及び交換

センターの出版物を，本年度も従来どおり国内の大学，研究所，在日各国公館など約200箇所，国外の大学，研究所，国際的機関など約330箇所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約80箇所，国外の研究機関約120箇所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3. 出版物の作成

3－A．機関誌East Asian Cultural Studiesの刊行

本年度は，Vol. XXVI Nos. 1－4合併号（vi，277 p.）を刊行した。内容は昭和59年度に実施した国際的協同調査「東南アジア諸国においてマス・コミュニケーションが大衆の文化に与える影響に関する国際的協同調査」の調査報告書である。タイトルおよび目次は下記のとおりである。

"International Joint Field Survey of the Impact of Radio and Television on Cultures of Selected Metropolitan Centres in Southeast Asian Countries, 1984." Edited by Tsujimura Akira and Ikuta Shigeru.

Preface
Part I: Papers
1. Comparative Analysis of Media Contact
   Introduction, by Tsujimura Akira
   The Spread of Mass Communication, by Tsujimura Akira
   Research Methodology and Special Features of the Sample, by Tsujimura Akira
   Television, by Okabe Keizo
   Radio, by Inamasu Tatsuo
   Cassette and Video Tape Recorders, by Ito Shin'ichi
   Leisure Activities, by Tsujimura Akira
   Traditional Cultural Activities, by Iwao Sumiko
   "Time Consciousness" and the Modernization of Society, by Sata Kazuhiko
   National and Social Consciousness, by Iwao Sumiko
   Cross Analysis, by Tsujimura Akira

2. The Impact of Radio and Television on Culture in Metropolitan Jakarta, by Harsono Suwardi
3. Television and Family Life in Malaysia, by Khor Yoke Lim
4. A Survey of the Impact of Radio and Television on Grass-root Culture in Thailand, by Bumrongsook Siha-Umphai

Part II: The Survey

International Joint Field Survey of the Impact of Radio and Television on Grass-root Culture in Southeast Asian Countries, Executive Meeting, 24-26 May 1984, Kuala Lumpur, Malaysia: Draft Prospectus and Tentative List of Participants

International Joint Field Survey of the Impact of Radio and Television on Cultures of Selected Metropolitan Centres in Southeast Asian Countries, 1984: Prospectus

Sample Design of Questionnaire in English

List of Frequency

Examples of Free Answers

Progress Report

Indonesia, by Harsono Suwardi

Malaysia, by Khor Yoke Lim

Thailand, by Bumrongsook Siha-Umphai

Guide to the Magnetic Tape

3－B. アジア史料叢刊 (Asian Historical Material Series)

『ラーマ一世年代記』第2巻註釈篇の編集，およびチャン・ヴァン・ザップ著，グェン・カク・カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

末広昭著『タイ国における資本蓄積』第1章—第5章の原稿を入手した。

3－C. 東アジア文化研究叢書（East Asian Cultural Studies Series）

次年度以降の出版計画について検討した。

3－D．日本における哲学思想文献の翻訳

欧文図書の販売を行っている書店の担当者７名を招聘して下記のとおり専門家会議を開催した。

３月18日：「わが国における欧文図書，特に学術図書（人文・社会科学）の輸入と流通の現状，および将来の見通し」

3－E．日本における東洋学の動向とその展望（Asian Studies in Japan, 1973–1983）

Part II（アジアの部）のうち次の10点を刊行した。

Part II- 7　Japanese Studies on Korean History (before 1910), by Kitamura Hideto

Part II-10　Japanese Studies on Chinese History (Yin to Warring States), by Ito Michiharu

Part II-11　Japanese Studies on Chinese History (Qin to Five Dynasties), by Ikeda Yuichi

Part II-12　Japanese Studies on Chinese History (Song, Yuan, Ming, and Qing), by Okuzaki Hiroshi

Part II-13　Japanese Studies on Modern Chinese History (1840-1949), by Kubota Bunji

Part II-14　Japanese Studies on Contemporary China, by Kawai Shin'ichi

Part II-15　Japanese Studies on Chinese Literature, by Sato Tamotsu

Part II-16　Japanese Studies on Inner Asian History, by Umemura Hiroshi

Part II-18　Tibetan Studies in Japan, by Matsumoto Shiro

Part II-28　Japanese Studies on Modern and Contemporary West Asian and North African History, by Hachioshi Makoto

3－F．アジアにおける最近の考古学的発見（Recent Archaeological Discoveries in Asia）

本年度は第４冊目として『日本における最近の考古学的発見』（Recent Archaeological Discoveries in Japan, edited by Tsuboi Kiyotari, translated by Gina L. Barnes, xiii, 108p., colour plates, 19p.）を刊行した。目次は下記のとおりである。

List of Illustrations
Preface
Translator's Notes
Introduction, by Tsuboi Kiyotari
1. The Palaeolithic Age, by Inada Takashi
2. The Jomon Culture, by Kato Shinpei
3. The Yayoi Culture, by Sahara Makoto
4. The Kofun Period, by Tsude Hiroshi
5. The Early Historical Periods, by Tanaka Migaku
6. The Protection of Archaeological Sites in Japan, by Tsuboi Kiyotari
Chronology
Bibliography
Acknowledgements
Plates

3－G．北アジア青銅器文化研究文献目録

1983 年から 1984 年にセンターが行なった「青銅器文化研究の現状調査」の結果を刊行した（Bibliography of Russian and Chinese Materials on the Bronze Culture of Northern Asia, 81 p.）。目次は下記のとおりである。

序文
Preface
第1部　ロシア文の部
第2部　中国文の部
索引

4. 業務報告

A．運営委員会・顧問会議

運営委員会

前　期　開催日　昭和61年５月27日（火曜日）午後１時30分～３時

場　所　東洋文庫３階会議室

報　告　1. 人事について

2. 昭和60年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和61年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

後　期　開催日　昭和61年11月27日（火曜日）午後１時30分～３時15分

場　所　東洋文庫３階会議室

報　告　1. 昭和61年度事業中間報告及び第１・２－四半期収支状況報告について

2. 人事について

議　題　1. 昭和61年度事業及び予算の改訂について

2. 昭和62年度事業計画案及び収支予算案について

顧問会議

開催日　昭和61年５月27日（火曜日）午後１時30分～３時

場　所　東洋文庫３階会議室

報　告　1. 人事について

2. 昭和60年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和61年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の改選について

B．役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
61. 4. 1	所長	松村　潤	就任	
4. 2	運営委員	奥平康弘	〃	東京大学社会科学研究所所長
4. 7	〃	山崎利男	〃	東京大学東洋文化研究所所長
4. 11	〃	竹内　實	〃	京都大学人文科学研究所所長
5. 26	〃	阿曽村邦昭	〃	文部省大臣官房審議官
62. 3. 31	〃	竹内　實	退任	京都大学人文科学研究所所長
〃	〃	百瀬今朝雄	〃	東京大学史料編纂所所長

C．職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
61.10.31	庶務外事室長	松前義治	退職	
12. 1	係員	小林和弘	就職	
62. 3. 31	調査資料室長	生田　滋	退職	
〃	専門員	Christian A. Daniels	退職	

D．受　章

年月日	役職名	氏名	区分	備考
61. 4. 29	顧問	佐藤正二	叙勲	勲一等瑞宝章
11. 3	運営委員	山本達郎	顕彰	文化功労者
12.12	参与	三上次男	選任	学士院会員

E．会計報告

昭和61年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（昭和62年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科目	金額（千円）	科目	金額（千円）
経常費	53, 065	国庫補助金	80, 019
人件費	49, 213	ユネスコ援助金	1, 088
事務費	3, 852	財産収入	9
事業費	28, 772	雑収入	721
研究経費	5, 206		
長期調査研究費	3, 160		
一般調査研究費	2, 046		
研究者の交流及び普及活動経費	3, 430		
研究文献の収集・目録の作成・翻訳出版等経費	20, 136		
計	81, 837	計	81, 837

5. 役職員名簿

昭和62年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりです。

A. 所　長

松村　　潤

B. 運営委員

氏　　名	現　　職
阿曽村　邦　昭	文部省大臣官房審議官
石　井　米　雄	京都大学東南アジア研究センター所長
岩　生　成　一	日本学士院会員
梅　棹　忠　夫	国立民族学博物館館長
梅　田　博　之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
岡　野　　澄	東京工業高等専門学校名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
奥　平　康　弘	東京大学社会科学研究所所長
尾　高　邦　雄	東京大学名誉教授
加　藤　淳　平	国際交流基金専務理事
河　野　　靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
重　藤　学　二	文部省大臣官房審議官
高　田　　修	東京国立文化財研究所名誉研究員
竹　内　　實	京都大学人文科学研究所所長
中　村　　元	日本学士院会員・東方学院長・東京大学名誉教授
服　部　四　郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福　井　康　順	早稲田大学名誉教授
福　井　直　俊	ユネスコ・アジア文化センター理事長
百　瀬　今朝雄	東京大学史料編纂所所長
森　崎　久　壽	アジア経済研究所所長
山　崎　利　男	東京大学東洋文化研究所所長
山　本　達　郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事

C. 顧　問

氏　名	現　職
植　木　　浩	文部省学術国際局長
佐　治　敬　三	日本ユネスコ国内委員会会長
佐　藤　正　二	国際交流基金理事長
前　田　充　明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

D. 参　与

氏　名	現　職
青　山　秀　夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織　田　武　雄	京都大学名誉教授
田　村　実　造	京都大学名誉教授
長　尾　雅　人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸　山　眞　男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
三　上　次　男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
宮　崎　市　定	京都大学名誉教授

E. 専門員

Christian Ashley Daniels

F. 職　員

職　名	氏　名		
調査資料室長	生田　滋		
普及室長	外池明江		
研究員	本庄比佐子	福田洋一	
研究助手	設楽靖子	坂本葉子	飯田隆子
係員	小林和弘		

G。臨時職員

昭和61年4月1日から昭和62年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりである。

市川陽子，内野佳子，宇野伸浩，海老名千夏，岡　洋樹，金子秀隆，杵淵嘉延，見目かおり，後藤敦子，清水敏江，中里成章，中村文子，林佳世子，藤田美和，古瀬珠水，保坂修司，松本暢子，ヤマンラール水野美奈子，横田久美子

財団法人 東洋文庫年報 昭和61年度

昭和62年11月25日 発行 （非売品）

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
榎 一雄

印刷者 東京都練馬区大泉町3丁目34番10号
有限会社 日本興業社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫

本書は昭和62年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。